

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

## P2 特集

阪神淡路20年—1.17は忘れない—  
「災害ボランティアセンター」を考える  
～社会福祉協議会と災害支援～

11

No.765

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ全県キャンペーン!

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

子どもの声を受け止める地域社会づくりに向けて  
～「川西市子どもの人権オンブズパーソン」の取り組み～

P8 まちとつながる・住民とつながる!企業・NPOの地域づくりレポート

木とふれあう、木に学ぶ、木と生きる 地域に根ざす住まいのインストラクター  
— 株式会社やすむら—

P9 地域を駆ける!ワーカー物語

「一人の百歩より百人の一步」が実感できる、小地域福祉活動を目指していきたい  
姫路市社会福祉協議会 外川 陽平さん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション



11月は  
「児童虐待防止  
推進月間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

神戸市



# 阪神淡路20年-1.17は忘れない- 「災害ボランティアセンター」 を考える

## ～社会福祉協議会と災害支援～

平成27年1月17日、阪神・淡路大震災から20年を迎える。この間も、東日本大震災をはじめ、全国ではさまざまな自然災害が発生した。今夏には丹波市で豪雨による大きな災害が発生し、県内外から訪れるボランティアにより、被災者に寄り添った復興支援が現在も継続されている。

今回の特集では、災害発生時に社協が中心となって開設・運営する「災害ボランティアセンター」の取り組みを紹介し、災害時の社協の役割について考える。



### 被災者の生活を支える ボランティア活動

#### 被災者の多様なニーズに対応

阪神・淡路大震災では、一年間で延べ137万人のボランティアが活動し、平成7年は「ボランティア元年」と呼ばれている。平成23年3月の東日本大震災でも、95万人以上のボランティアが全国から駆け付け、さまざまな救援・復旧活動が展開されている。

現在では、大規模災害が発生すると、被災地にボランティアが真っ先に駆け付ける光景がマスコミ等で報道されることは珍しくなく、災害時のボランティア活動は一般的に認識されているといえる。

大規模災害では、家屋の損壊や避難所での生活などにより、住民の「普段の暮らし」が奪われる。老若男女を問わず、誰もが生活課題を抱えた被災者となり得るため、多種多様なニーズに柔軟に対応できるボランティアやNPOによる支援は、災害時にはなくてはならないものになっている。



対し、次第に見守りなどの生活支援へと移行し、さらには住民同士の交流活動など地域コミュニティの再生を視野に入れた活動も必要となってくる。

阪神・淡路大震災以降の20年間で兵庫県社協が関わった災害支援活動は、図表2の通りであり、全国各地で災害ボランティアセンターが運営されてきた。

社協は全国ネットワークを生か

■図表2 阪神・淡路大震災以降に県社協が関わった主な災害

- ロシアタンカー重油流出事故(平成9年1月) 日本海沿岸
- 有珠山噴火災害(平成12年3月) 北海道
- 鳥取西部地震(平成12年10月) 鳥取県
- 台風23号(平成16年10月) 兵庫県 但馬・淡路地域
- 新潟県中越地震(平成16年10月) 新潟県
- 能登半島地震(平成19年3月) 石川県
- 新潟県中越沖地震(平成19年7月) 新潟県
- 台風9号水害(平成21年8月) 兵庫県 佐用町・宍粟市・朝来市
- 東日本大震災(平成23年3月) 岩手県・宮城県・福島県ほか
- 台風15号水害(平成23年9月) 兵庫県 淡路地域
- 和歌山県・台風12号水害(平成23年9月) 和歌山県
- 台風15号水害(平成23年9月) 兵庫県 淡路地域
- 九州北部豪雨災害(平成24年7月) 熊本県阿蘇市
- 淡路島地震(平成25年4月) 兵庫県 淡路地域
- 山口県豪雨災害(平成25年8月) 山口県萩市
- 京都府豪雨災害(平成25年9月) 京都府福知山市ほか
- 丹波豪雨災害(平成26年8月) 兵庫県丹波市



発災から10年を迎えた台風23号水害



東日本大震災では全国的な救援活動が展開された

### 丹波市の概況と今回の災害の特徴

10年前の平成16年11月に6町合併し、現在の人口は約6万8,000人で高齢化率30.2%。丹波市内には、25小学校区ごとに「自治協議会」が組織され、「コミュニティセンター」が地域活動の拠点となっている。

同市では、8月16日夜から発生した豪雨により、各地で土砂崩れなどが発生し、1人が死亡、4人が重軽傷を負った。住家被害も全壊17棟、大規模半壊8棟、半壊39棟、一部損壊1棟、床上浸水140棟、床下浸水723棟に上るなど、谷沿いの集落を中心に大きな被害が発生した。

### 災害ボランティアセンター 運営の実際

ここからは、このたびの「丹波市災害ボランティアセンター」の取り組みから、実際にセンターがどのように運営されているのかを紹介する。

した被災地での支援活動を重ねること、被災者のニーズに応じた災害ボランティアセンターの運営ノウハウを蓄積してきたといえる。



■図表1 災害ボランティアセンターの主な役割

- ①被災者のニーズ把握
- ②ボランティアの募集・受付
- ③ボランティア活動のマッチング
- ④資材確保管理・保険加入手続き
- ⑤災害対策本部との連絡調整
- ⑥関係機関への情報提供、支援要請 など

日々変動する被災者のニーズとボランティアなどの支援を適切にコーディネートしていくのが「災害ボランティアセンター」だ。センターは、災害発生時に立ち上げられ、地域福祉やボランティア活動を推進している地域の社会福祉協議会が中心となって運営するのが一般的となっている。センターでは、ニーズの把握、ボランティアの募集・受付、活動のマッチング、災害対策本部との連絡調整などが行われ、被災地のボランティア活動の調整機関として機能することになる。(図表1)



実践報告

丹波市災害ボランティアセンター(丹波市社会福祉協議会)の取り組み

発災直後にセンターを開設

丹波市社協では、災害発生から約1カ月間、8月19日から約1カ月間、「災害ボランティアセンター」を運営し、被災者支援を行ってきた。開設当初は、家屋の片付けや泥出しに関するニーズが多く寄せられた。市社協では、ホームページに市内の被災状況、必要とされる活動内容等を掲載し、ボランティアの募集を行った。9月16日までに延べ1万3,860人がセンターに登録してボランティア活動を展開した。

行政・NPOとの連携

市社協では、平成20年度に「災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」を整備しており、迅速なセンターの立ち上げができた。また、丹波市と「災害時における丹波市災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定」を締結していたこ

県内の社協が被災地に送り出した「団体ボランティア数」は全体の2割超!

今回、丹波市災害ボランティアセンターが受け付けた団体ボランティア数9,405人のうち、県内の社協がボランティアバス・ワゴンを出して現地入りしたボランティアは1,941人にも上り、全体の20.6%を占めている。

とから、この協定に基づき、拠点・資機材の確保、市の災害対策本部との連絡調整を担う市職員の配置などのバックアップを受けることができた。さらに、センター運営では、東日本大震災等の被災地での活動経験を持つ地元災害支援ボランティアネットワークの強力な連携による被災者支援活動が展開された。併せて、丹波市災害対策本部では「災害ボランティアセンター調整会議」を随時開催し、関係団体との連携やセンター運営の方向性などが共有され、官民協働の運営がなされた。

県内の市町村社協による応援

兵庫県社協では、センターの立ち

今回の丹波市の実践から見えてきたポイントとしては、以下の3点が挙げられる。

ポイント① マニュアルの作成

災害ボランティアセンターのマニュアルが整備され、開設場所や運営組織も円滑に決まり、素早く体制を立ち上げることができた。

ポイント② 行政との協定

災害ボランティアセンターの運営に関する協定を行政と社協間で交わしており、資機材・財源の確保、専任の行政担当職員の配置ができた。

ポイント③ 地域のネットワーク

市の災害対策本部を中心に、社協とNPOなどの協働・共有の場が開催され、各小学校区単位の「自治協議会」や自治会とも連携した対応ができた。

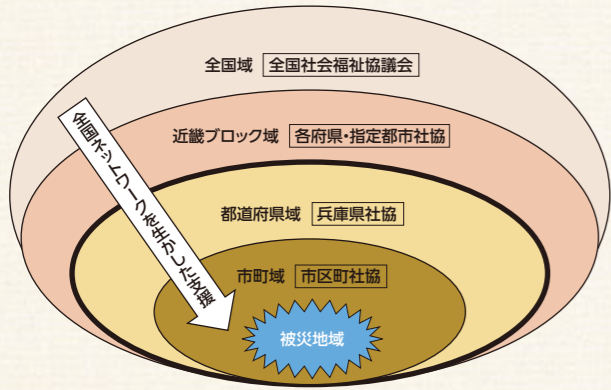
災害ボランティアセンターが機能するために

問われる日常からの社協活動

社協にとって、災害時は、日頃の地

域福祉の実践力や協働力が試されるといえる。災害支援は、日々の社協活動と同じく「住民(被災者)主体」によって行われるべきもので、個々のニーズや復旧・復興の段階に応じた支援が必要となる。社協は、地域福祉を推進するため、民生委員・児童委員、福祉施設、自治会、行政機関、ボランティア、NPOなどで構成され、あらゆる関係機関とつながりながら活動を行っている組織である。社協が災害支援を進める意義は、このような平時の取り組みの中で築いてきた関係性を生かし、被災者とボランティア・NPOなどの支援者との橋渡し(中間支援)を行えるという点にある。地域の関係機関との日頃からの協働が、災害時の支援の力量に反映されることになる。また、地域住民の結びつきが強い地域であっても、災害時に被災者が助けを求める声を上げづらいという状況が発生する場合もある。特に高齢者、障害者などの要援護者の把握や見守りを普段の活動の中で進め、助けてと声を上げやすい関係づくりを進めていくこと

図表4 全国ネットワークによる支援のイメージ



※兵庫県の場合、県内ブロックの圏域もある。

キーワード解説 「協働」とは

「協働」とは、異なる立場や特徴をもった人々や団体が、互いに対等な立場で、それぞれの持ち味を生かして、ともに何かを創り出していくことです。「協働」は、それぞれのニーズ、共通の目的・課題があって初めて生まれます。また、「協働」は自然発生的に生まれるものではなく、意図的な働きかけや仕組みが必要で、マナーや姿勢も大切になります。

が災害時に生かされることになるのである。

全国ネットワークによる支援

東日本大震災のような広域にわたる大規模災害では、市町単位、あるいは都道府県単位の支援にとどまらず、近畿ブロックなどの全国的な支援体制が必要となる。

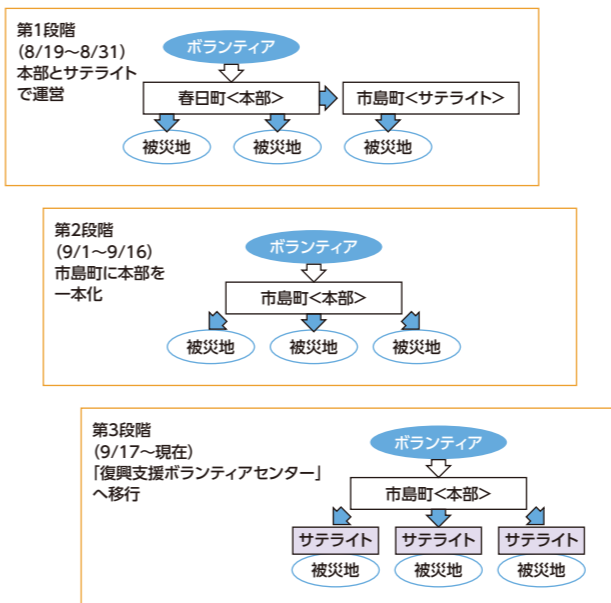
このような状況を想定し、近畿ブロックの府県指定都市社協では「災害時の相互支援に関する協定」を締結している。被災地の地元社協と協働しながら、全国ネットワークを生かした広域的な支援を展開

復興支援の体制へ移行

災害発生から1カ月が経過し、被災者のニーズも変化してきたことから、9月17日からは、「復興支援ボランティアセンター」に体制を移行し、地元主体の継続的な支援活動を目指すこととなった。

現在は、被害の大きな地域で「ミニユニティセンター」等を拠点とした「サテライト」を設置し、自治協議会と関係団体の連携により、見守りや住民の交流活動など、地域密着型の活動が展開されている。(図表3)。

図表3 丹波市災害ボランティアセンターの変遷



開できることが社協の強みである(図表4)。

社協としての特性を發揮

社協は、地域福祉を推進する中核的な役割を担う公共性の高い組織である。災害時にはそのような機能を最大限に發揮し、災害復旧から復興支援までを継続して行うことになる。そのためには、社協には平時から地域での支え合いの体制づくりを進めながら、災害に備えた「安心・安全な地域づくり」を進める役割を發揮することが求められる。

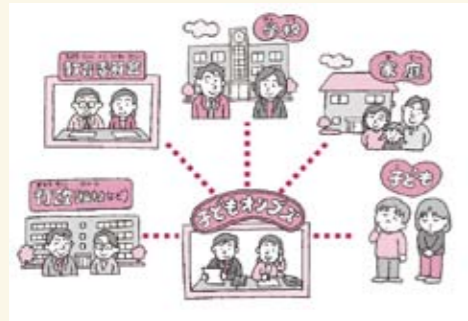
11月は「児童虐待防止推進月間」だよ。虐待やいじめなど、子どもを巡る問題はさまざまけど、川西市では子どもの権利を守るための相談や調査を行う第三者機関を、15年前から全国に先駆けて設立しているんだって。一体どんな相談が寄せられているのかな。



## みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

### ■「子どもオンブズ」の連携イメージ



「いじめ」問題が設立のきっかけ  
「川西市子どもの人権オンブズパーソン」以下、「子どもオンブズ」は、研究者・弁護士から成る「オンブズパーソン」3名と公募の調査相談専門員4名が、市内に在住・在学・在勤の子どもたちからの悩みや相談に応じ、家庭や学校における問題解決を図る公的な第三者機関である。設立の背景は、全国的に子どもの「いじめ」が深刻な問題になった1990年代に、同市が子どもを対象に行ったアンケート調査だ。「いじめを受け、生きているのがつらい」と答えた子どもが、クラスで1〜2名いることが判明し、子どもの人権を守る仕組みとして、平成10年に「子

## 子どもの声を受け止める 地域社会づくりに向けて

### ～「川西市子どもの人権オンブズパーソン」の取り組み～

子どもオンブズでは、相談を受けた場合、子ども自身が何に困っていて、どう解決していきたいかを一緒に考える。「子どもは、大人が考える以上に話を聞いてもらっていないと感じている」とチーフ相談員の渡邊充佳さんは話す。相談内容としては、家庭生活・家族関係の問題を背景として、学校生活を始めたさまざまな問題が起きているものが多い。ここ2〜3年ぐらいの特徴として、生活困窮などにより家庭の生活基盤に課題を抱える子どもたちとの関わりが増えてきた。地域における人間関係が希薄になり、学校と家庭の人間関係の枠内で完結しがちな子どもたちの生活の



川西能勢口駅近くに設置した相談室「子どもオンブズくらぶ」では、ゆったりとした環境の中で子どもの話をじっくり聞いている

子どもの人権オンブズパーソン条例」が制定された。いじめや体罰、虐待等で苦しむ子どものSOSを受け止め、子ども自身が権利の主体として問題解決に取り組めるよう、親でも教員でもない立場で、子どもの声に耳を傾けることを大切にしてきた。

### 子どもの人間関係を地域で育む

ありようが、子ども同士の関係のひずみにもつながっているという。「相談をきっかけに、人とのつながりが感じられるようになると、子どもは元気を取り戻していきます」と語る渡邊さん。「子どもオンブズ」では、市内で発生したいじめ事件を踏まえ、子どもが健やかに育つことのできる環境づくり」を平成25年11月に提言した。地域における多様な人間関係の中で、困難を抱える子どもたちの声をキャッチしてまちづくりに反映させていくことが、抜本的ないじめ対策にもつながると指摘する。学校や家庭だけではなく、福祉関係者も含めた地域社会づくりが求められている。

### 取材を終えて

「関わりを通じて子どもの前向きな変化が感じられると、私たちも励みになる」という渡邊さんの言葉から、「子どもオンブズ」が子どもにとっての地域のセーフティネットになっていると感じました。

川西市子どもの人権  
オンブズパーソン事務局  
川西市中央町12-1(川西市役所3階)



## TOPICS

前号でご紹介した市町社協による「地域フォーラム」の開催状況を、今号より随時ご紹介していきます。

### 集落ごとに福祉活動の現状を点検

香美町では、5月から7月に旧町単位の3会場で「集落福祉活動研修会」を開催。各集落の区長、福祉委員長、民生委員、児童委員など住民が集い、集落内でのつながりづくりを推進するための意見交換を行いました。

当日は、社協から最近の社会情勢などについて基調説明を行った後、集落ごとに分かれて「福祉活動点検シート」を基に福祉活動の現状を共有。福祉・防災マップの要援護者登録を軸にした見守り活動やいきいきサロン、ご近所ボランティア事業との連動の必要性と、今後の取り組みの方向性について認識を深めました。



### 気軽に話ができる関係の大切さを確認

篠山市では、7月6日に「地域の力で安心して暮らせるまちを作ろう!」をテーマにフォーラムを開催し、講演会やパネルディスカッションが行われました。地域の困り事を解決するきっかけは、ニーズ(つばやき)を拾い上げることであり、そのためには日頃から気軽に話ができる関係づくりが大切であることを認識しました。

また、パネル展示では、福祉委員連絡会と福祉団体によるレクリエーションの紹介や作品展示のほか、社協事業のPRを行いました。



### 災害時に生きる普段からの地域づくり

上郡町では、8月30日に「災害にも強い福祉の町づくり」をテーマとしたフォーラムを開催。NPO法人さくらネット代表理事の石井布紀子さんを講師に招き、東日本大震災などの災害から学んだ教訓を分かりやすく講演いただき、普段からの地域づくりが、災害にも強いまちづくりにつながることを伝えていただきました。

また、当日は「ストップ・ザ・无缘社会」全県キャンペーンなどのパネル展も開催。町社協が取り組んでいる災害ボランティア活動なども紹介し、地域の方々にさまざまな活動内容を知っていただく機会となりました。



### つながり合うための情報共有の在り方を学ぶ

稲美町では、9月19日に「ひとりぼっちをつくらない地域づくりフォーラム」を開催。桃山学院大学副学長の松端克文さんを招き、「地域福祉活動における個人情報保護と活用方法」をテーマに講演が行われました。また、つながりを紡いでいくためには、地域にある問題を「あなたの問題」から「私たちの問題」へと捉え直すことが重要であるとの提起が行われ、自治会長や福祉委員などが地域づくりの在り方について学ぶ貴重な機会となりました。



# 木とふれあう、木に学ぶ、木と生きる

地域に根ざす住まいのインストラクター — 株式会社やすむら—

## 「木とふれあう」木育プロジェクト

加古川市で建設工事業を営む株式会社やすむらの代表取締役・安村義光さんが、地域の同業者と「協同組合モリの木ネットワーフ」を設立したのは10年前。それ以来、兵庫県産材と国産材の利用による地産地消を推進しながら、間伐材や建築廃材の有効利用と「木育」とを組み合わせた、「木とふれあう、木に学ぶ、木と生きる」を理念とした実践を行っている。

「木育」とは、市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶことを狙いとした概念だ。

平成24年から学校や公民館等で開催している「木育講座」では、安村さんが「報徳の精神」で知られる二宮金次郎に自ら扮して、山の話や木の使い方などを説明する。そ



二宮金次郎に扮した安村さん

知られる二宮金次郎に自ら扮して、山の話や木の使い方などを説明する。そ



カンナを使って「マイ箸」づくり!

の衣装も、社員をはじめ地域の方々の協力で作ったものだ。併せて実施する木工教室では、子どもたちが本立てや箸、コースターを作り、社員が技術指導を行う。直接地域や学校に向かうことでつながりを増やし、子どもたちが木材に触れ、ものづくりの楽しさを体験しながら、木について学ぶ機会をつくっている。また、講座で使用する素材の加工や梱包等を、高齢者・障害者施設と連携して行い、地域雇用の促進を目指したいと考えている。

## 「長く続けることが「社会貢献」

安村さんは、木育以外にもさまざまな活動に携わっている。地域を担う次世代の子どもたちを心豊かな社会人に育てるために、親や周囲の大人が変わらなくてはいけないの思いから、PTA役員のOBが集まって「みなのかい」という

ボランティア団体をつくった。幼少期の子どもを持つ保護者を対象に、育児に関する講演とグループ討論を定期的に行い、人に対する優しさや道徳心を持ち続けることの大切さを伝えている。普段、相談できる人のいない若い保護者からは、「みなのかい」での意見交換の場で悩みが解消したと好評を得ている。

「地域での活動は継続を考えねばならない。長続きすること、それが地域や人のためになる」と話す安村さん。地域に恩返しをしたいという思いから、地域を良くするための取り組みを自分たちが進めていることが必要と考えている。今後とも会社では、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいきたいという。

株式会社やすむら  
所在地 加古川市野口町野口795-11  
TEL 079-426-3294  
URL <http://www.kk-yasumura.com/>

## 地域を駆ける！ ワーカー物語

# 二人の百歩より百人の「一歩」が実感できる、小地域福祉活動を目指していきたい

## 心に残るエピソードは？

地域福祉課に異動して3年目です。同僚や上司に「地域福祉とは何ぞや」を教えてもらいながら仕事をしてきました。総務課の経験しかなかった私にとって、社協職員としてどのように地域の活動に携わっていくべきか迷い、焦り、頭を抱え、自問自答する日々が続いていました。そんな時、ある地域の方が「むかし、市社協の職員に『一人の百歩より百人の一步が地域福祉には大切なんです』と言われたことが、私のボランティア活動の精神として心に残っています」と話してくださいました。福祉活動の実践につながるよう、活動者に共感を与える一言。先輩職員が地域に出ているような信

## 力を入れた活動は？

念で活動し、地域の方がどう思っていたのかを知る貴重な経験になりました。私も、この言葉を大切にしながら、実感できるような社協職員を目指すこと、地域に出て活動をしています。



来年度ブロック会議は「地域の子育て支援」がテーマとなる予定

昨年からの取り組みである社協支部ブロック会議です。市内の71社協支部を12ブロックに分けて、小地域福祉活動の中から発見される課題の共有などを行っています。例えば孤立防止に向けて、ある自治会長から「地の人って、いつから住んでたら地の人なんや。そんなこと言うから新旧の壁ができる！」うちの地域では、今日から住み始めても、地の人「や」と見守りし支え合いの輪を広げようと発言がありました。これからは、地域の活動者、社協職員や地域

## 大切にしていることは？

包括支援センター、福祉関係の事業所、行政などの専門機関も連携し、地域の課題を一緒に考えることが大切です。立場の違う人が同じテーマで話し合うことが重要で、この取り組みを社協支部の小地域福祉活動計画づくりにも展開していきたいと考えています。

小地域福祉活動の実践者の多くは、人生の大先輩です。地域福祉に関わる上で一番大切なことは、感謝し、聴き、考えることだと思っています。すぐに結果の出る仕事ではなく、一度積み上げたものをやり直すことも多々あります。だからこそ、社協職員として、地域の方々と関わる中で、その根底にある思いや意義、人間関係を、いつまでも大切にしていきたいです。また、近隣市町社協の方々と、多くの情報や知識を共有しあえるような関係づくりもしていきたい

## 取材を終えて

「地域の方々と一緒になって地域福祉を推進していきたい」と話す外川さん。住民も専門職も一緒になって地域の困り事を共有し、対処方法を考える場づくりが、これからの「地域みんなの「一歩」につながるっていくのだと思いました。

## 姫路市社会福祉協議会 外川 陽平さん

### Personal History

24歳 総務課・経理会計を担当

29歳 総務課・労務給与を担当

35歳 地域福祉課に異動し、ふれあいサロン事業の基本事業化や、地域福祉推進計画に基づき買物支援サービス事業の新規実施、ブロック会議の開催などに取り組む

たいと思っています。





園児が元気にパレードを盛り上げました



神戸・清盛隊、あかはねちゃん、ヴィッセル神戸 モーヴィ君で共同募金をPR

当日の様子は、共同募金会 ホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください!

赤い羽根ひょうご

赤い羽根共同募金運動は、今年で68年目を迎えます。兵庫県では、「やさしさ」が、必ずとどく。赤い羽根」をスローガンに、10月1日から12月31日まで、5億5504万1000円を目標に募金運動を行います。

県共同募金会では、神戸市共同募金委員会とともに神戸市中央区の元町商店街にて10月1日にオープニングセレモニーを行いました。厚生労働大臣および中央共同募金会会長メッセージをANA客室乗務員の荻野真央さんに伝達いたただくとともに、神戸市長田区の近田幼稚園による鼓隊パレード、神戸・清盛隊のマイクパフォーマンスが行わ

**県内各地で  
赤い羽根共同募金運動  
を展開中です!**

れ、オープニングに華を添えていただきまし

共同募金運動は12月までの間、皆さんのお住まいの地域や学校、職場などさまざまな場所でご協力いただき展開されます。共同募金は、地域の福祉活動や社会福祉施設、福祉活動団体の支援、災害時の被災者支援の活動などに役立てられ、県民の誰もが参加できる地域福祉活動です。今年も、皆さんのご協力ご支援をどうぞよろしく願っています。



共同募金運動のスタートを宣言



9月12日、南あわじ市内で、児童福祉施設、高齢者福祉施設、障害者福祉施設、保育所などを経営する9つの社会福祉法人が、連絡協議会を設立した。参加したのは、淡路島福祉会、育世会、みかり会、西光寺和順会、緑風会、みはら福祉会、むつみ福祉会、平成記念会、淡鳳会の9法人。

県内で社会福祉施設を経営する社会福祉法人の協議体である兵庫県社会福祉法人経営者協議会(経営協)では、社会福祉法人の地域貢献を推進するため、①地域住民の生活上の相談事を総合的に受けられる

**南あわじ市社会福祉  
法人連絡協議会が  
設立される!**

連絡協議会の事務局は、南あわじ市社協が担う。今後、住民の生活総合相談事業や福祉教育、福祉学習に関する活動、災害時の支援活動等に



相談窓口の開設、②市区町内の社会福祉法人による連絡協議会の設立を提唱しており、南あわじ市では、経営協からモデル地域の指定を受けて、設立準備を進めていた。

この日の設立総会は、西淡公民館において、関係者約50名の出席により開催された。発起人としてみかり会の谷村誠理事長と南あわじ市社会福祉協議会の谷口啓一会長のあいさつの後、設立趣意書の採択、規約、事業計画等の審議が行われた。また、桃山学院大学副学長の松端克文さんによる「社会福祉法人の社会貢献活動について」の記念講演が行われた。

**みんなの広場** 兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

**社会福祉法人 兵庫盲導犬協会**

当協会は、目の不自由な方の「目」となり「希望」となって共に歩く「盲導犬」の育成および普及・啓発活動を行っています。盲導犬は、心身共に使用者に寄り添い、安全で快適な歩行を実現してくれます。

平成27年度に設立25周年を迎える当協会では、これまでに46頭の盲導犬を目の不自由な方へ無償で貸与してきました。盲導犬を1頭育成するためには約500万円の費用が必要で



連絡先 社会福祉法人 兵庫盲導犬協会  
〒651-2212 神戸市西区押部谷町押部24 ☎078-995-3481 FAX078-995-3483  
URL <http://www.moudouken.org/> Mail [info@moudouken.org](mailto:info@moudouken.org)

アピールしたい活動の  
情報をお寄せください。 問い合わせ  
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail [info@hyogo-wel.or.jp](mailto:info@hyogo-wel.or.jp)

こんな取り組みをしています!

毎年4月29日(祝)に盲導犬啓発イベント「国際盲導犬デーin神戸」を行っているほか、県内各地でイベント活動・募金活動を行っております。詳細につきましては当協会ホームページをご覧ください。



布亀株式会社との締結の様子(8月8日)

一人暮らし高齢者世帯などの孤独死が社会問題となる中で、見守り活動や緊急事態への早期対応が課題となっている。

このため兵庫県では、各家庭を訪問し異変を発見する可能性のあるライフライン企業等民間事業者と本会および県民生委員児童委員連合会の間で見守りに関する協定を締結し、市町が取り組む見守り活動を支援している。

このたび、布亀株式会社(8月8日)と播州信用金庫(10月17日)との協定が新たに締結された。地域における見守り活動が一層進むことが期待される。

**地域見守りネット  
ワーク応援協定を  
新たに締結**



また、県共同募金会で受付を行っている「丹波市豪雨災害義援金」として、西部電気建設株式会社から500万円(9月25日)、写真上、明治安田生命保険相互会社神戸支社から30万円(9月10日、写真下)の寄付をいただきました。お預かりした義援金は、丹波市を通じて被災者に届けられます。

**大雨災害に係る見舞金  
等について(お礼)**

8月16日からの大雨で丹波市を中心に発生した災害にあたり、以下の団体より本会に対して見舞金等の送金をいただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

滋賀県社協、京都府社協、大阪府社協、奈良県社協、和歌山県社協、宮城県社協、福井県社協

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

平成27年度年賀寄附金配分

社会福祉の増進を目的とする事業など総務大臣の認可を経て、法律で定められた10の事業を行う全国各地の多くの団体に配分します。

**対象** 【一般枠】「お年玉付郵便葉書等に関する法律」に定められた10の事業を行う社会福祉法人、更生保護法人、特例社団法人、特例財団法人、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人【特別枠】営利を目的としない法人

**配分事業分野** 【一般枠】活動・一般プログラム、活動・チャレンジプログラム、施設改修、機器購入、車両購入【特別枠】東日本大震災の被災者救助・予防(復興)

**助成額** 1件上限500万円※活動・チャレンジプログラムについてのみ50万円

**締切り** 平成26年11月14日(金)消印有効  
 ④⑤日本郵便株式会社 総務・人事部 環境・社会貢献室 TEL03-3504-4401  
**URL** <http://www.post.japanpost.jp/kifu/>

田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム

患者の療養・就労生活の改善等、QOL向上実現のために取り組んでいる難病患者団体およびその支援団体へ助成します。

**対象** 厚生労働省が「難治性疾患克服研究事業対象疾患130疾患」として定める難病の患者とその家族等が所属する、国内に主たる活動拠点を有する団体

**助成額** 1件上限100万円(総額1,000万円)

**締切り** 平成26年11月15日(土)消印有効  
 ④⑤公益社団法人日本フィランソロピー協会 TEL 03-5205-7580  
**URL** <http://philanthropy.or.jp/>

JT NPO助成事業

地域コミュニティの再生と活性化につながる事業に対し、助成します。

**対象** ①非営利法人②平成26年9月30日時点で、法人格を有して1年以上の活動実績を有する法人③設立目的や活動内容が、政治、宗教、思想などに偏っていない法人、の全てを満たす法人

**助成額** 1件上限150万円(40件程度)

**締切り** 平成26年11月20日(木)必着  
 ④⑤日本たばこ産業株式会社 CSR 推進部 社会貢献室 TEL03-5572-4290  
**URL** <http://www.jti.co.jp/csr/index.html>

公益財団法人愛恵福祉支援財団 社会福祉育成活動推進のための助成事業

財政的な裏付けの少ない先駆的な試みや開拓的な事業活動に対し、助成します。

**対象** 社会福祉法人および特定非営利活動法人、任意団体等

**助成額** 1件上限20万円(総額700万円)

**締切り** 平成26年11月20日(木)消印有効  
 ④⑤公益財団法人愛恵福祉支援財団 TEL03-5961-9711  
**URL** <http://www.aikei-fukushi.org/>

公益財団法人畑崎財団 畑崎記念ファッションブルエージング賞

年を重ねても明るく健康で内面が充実した生き方を実現するため、有意義な地域活動を行う個人・団体やそれを行うことを支援する個人・団体を顕彰します。

**賞** 健康づくり分野、知的活動分野、社会奉仕活動分野:各2件以内※賞状と副賞50万円

**締切り** 平成26年11月30日(日)  
 ④⑤公益財団法人畑崎財団 事務局 TEL 078-221-1919  
**URL** <http://www.hatasaki-found.or.jp/>

研修・イベント

KSCマジッククラブ・同好会 第12回マジックの祭典

**日時** 平成26年11月15日(土)13:00~  
**会場** 兵庫県民会館9階ホール(神戸市中央区)  
**参加費** 無料  
 ④⑤神戸市シルバーカレッジマジッククラブ・同好会 TEL078-821-7624

兵庫県作業療法士会 介護の日記念講演会 「認知症高齢者を支える地域づくり」

**日時** 平成26年11月30日(日)13:30~15:30  
**会場** ラッセホール地階 リリーの間(神戸市中央区)  
**講師** 森上淑美氏(川西市地域包括支援センター主任介護支援専門員)  
**参加費** 無料  
 ④⑤一般社団法人兵庫県作業療法士会  
**URL** <http://ot-hyogo.or.jp/>

グリーンケア認定課程(2年制) 受講生募集

**開講期間** 平成27年4月~平成29年3月  
**開講日時** 毎週水曜日18:00~21:10、第2・4土曜日9:30~18:20※1年次基礎コースは午前中のみ

**開講場所** 上智大学大阪サテライトキャンパス  
**受講料** 臨床コース:1年目28万円、2年目35万円 基礎コース:1年目18万円、2年目18万円

**締切り** 平成26年12月5日(金)必着  
 ④⑤上智大学グリーンケア研究所 TEL06-6450-8651  
**URL** <http://www.sophia.ac.jp/>

平成27年 新年福祉のつどい

地域福祉の一層の推進に向けた懇談・交流を図ることを目的に、新年の賀詞交換の場として開催します。

**日時** 平成27年1月10日(土) 13:00~15:00  
**場所** ANAクラウンプラザホテル神戸  
**参加費** 7,000円(一人あたり)  
 ④⑤兵庫県社会福祉協議会 総務企画部 TEL078-242-4633

行事予定

- 11月 4日 介護支援専門員専門研修課程II・更新研修A(後期)◆県社会福祉研修所ほか
- 7日 若年性認知症家族介護者研修会◆県福祉センター
- 8~9日 ふれあいの祭典・コウノリ翔ける但馬まるごと感動市◆県立但馬ドーム
- 9日 福祉の就職説明会 AUTUMN in HYOGO◆姫路商工会議所
- 14日 第63回兵庫県社会福祉大会◆三田市総合文化センター
- 19日 生活支援員(現任)研修会◆県福祉センター
- 25日 第1回ひょうごボランティアプラザ運営協議会◆神戸 크리스タルタワー
- 28日 第4回県内社協事務局長会議◆県福祉センター
- 30日 若年性認知症啓発フォーラム◆兵庫県農業会館
- 12月 5日 社会福祉法人人事・労務管理研修(人事編)◆県社会福祉研修所
- 17日 栄養士・調理師研修◆県立のじぎく会館
- 24・25日 社会福祉援助基礎研修(Bコース)◆県社会福祉研修所

保険相談

生命保険の見直し相談  
 分かりにくい保険を  
 分かりやすく伝える

生命保険 医療保険  
 がん保険 学資保険

創業36年の保険代理店  
 株式会社 近畿ファミリー

0120-004-888 大阪府茨木市西駅前町 6-36-206

「兵庫県福祉手帳2015」 予約注文受け付け中!

兵庫県福祉手帳<2015年度版>が12月上旬発売予定です。カレンダーのほか、県内の福祉関係機関一覧を掲載しており、福祉関係者必携!  
 ※民間社会福祉事業職員互助会の加入者には互助会より配布されますのでご注意ください。



[サイズ]ヨコ9cm×タテ15cm [価格]970円(税込)

申し込み・問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 TEL078-242-4633